

## 米 FOMC 終了:

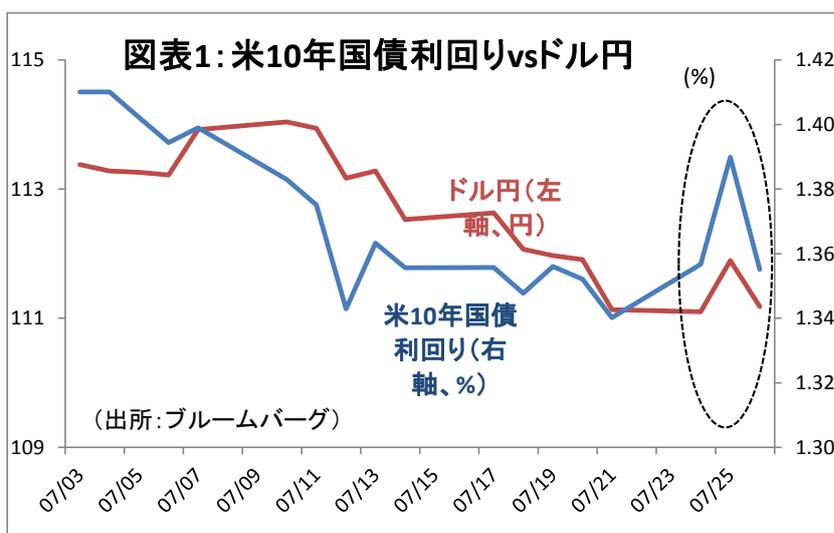
### 日欧に続き金融政策維持。これまで以上に消費者物価に注目

- 26日、日銀、ECBに次いで米 FOMC が金融政策決定会合を実施。予想通り、政策金利は1-1.25%に据え置かれた。
- FRB の資産縮小開始時期を「年末まで」から「比較的早期に」と、時期を明示しない形に変更。「9月開始」に偏った市場予想を沈静化し、時期に幅を持たせた。
- FRB の懸念は低迷する消費者物価指数。9月19-20日の次回会合まで現状程度で留まるなら9月から資産縮小を断行するとみられるが、更に下落した場合後ずれのシナリオも。

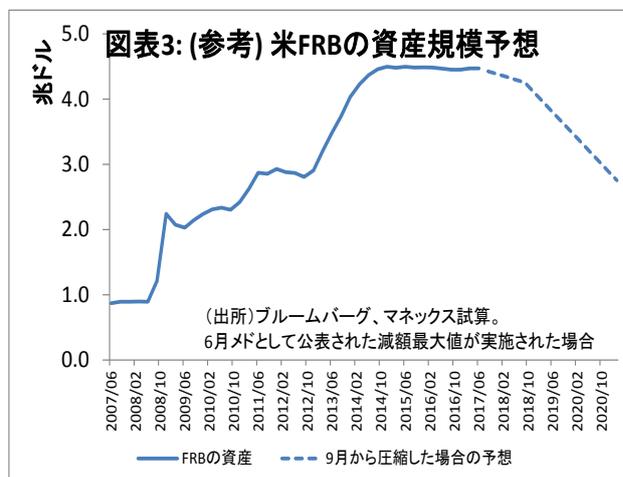
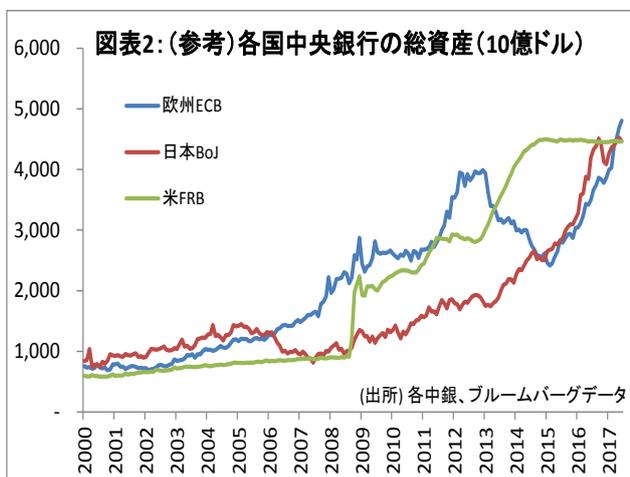
#### 米 FOMC: 政策変更なし。注目のバランスシート縮小時期については、幅を持たせた格好

26日、米連邦準備制度理事会(FOMC)の金融政策決定会合が終了。FF金利誘導目標は、予想通り、1-1.25%に据え置かれた。

会合後の声明文については、特にバランスシートの縮小開始時期について何らかの示唆があるかどうか注目されていた。タカ派のコメントを期待して上昇していた米国債金利は低下、これに連動して為替も若干円高ドル安に振れた(図表1)。

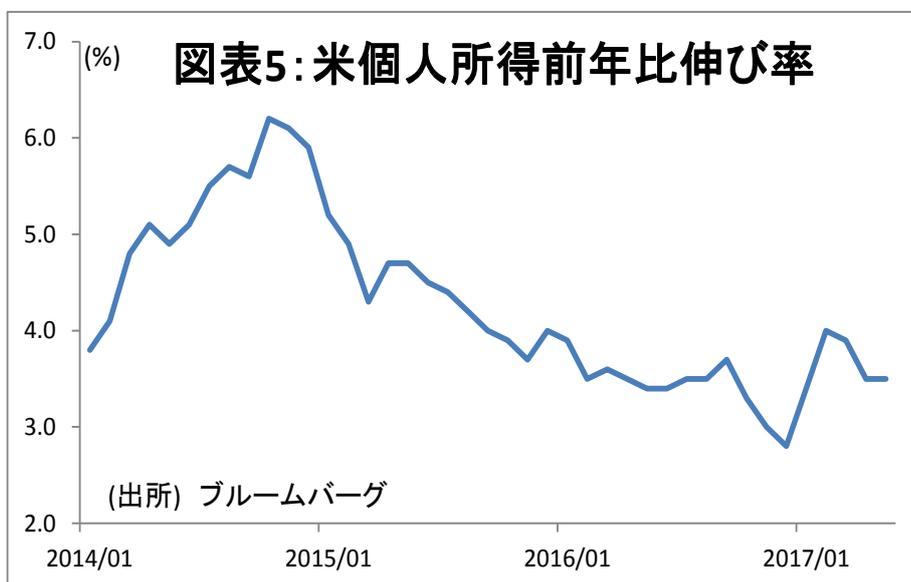
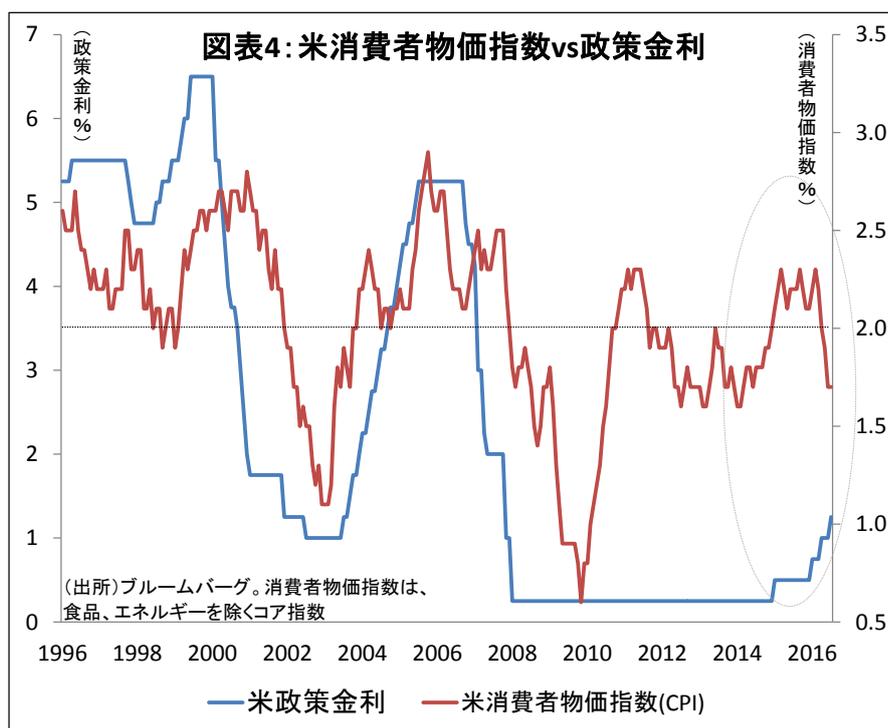


債券市場で期待が低下した要因は、声明文のバランスシート縮小時期へのコメントである。前回6月のFOMCでは、「年内開始」として、その開始後の資産圧縮ペースのメドについても公表した(図表2、3)。



次回 FOMC は 9/19-20 と 2 か月弱も間が空く。この間の注目点は、毎月の消費者物価指数、イベントとしては、8 月 24~26 日のジャクソンホール会議でのイエレン議長のスピーチである。

消費者物価指数は、足元で低調である。これについて、FRB は携帯電話のサービス料金などの一時的な要因が混入しているとしてきたが、それ以外にも、過剰融資問題から低迷している自動車販売などが響いている。さらに個人所得も、概ね底堅いものの、その他の要因を押し返すだけの勢いはない(図表 5)。



このため、現在の景気の回復基調が腰折れるリスクもゼロではない。失業率、消費者物価指数、賃金上昇率などが現状通りのペースで回復する限り、バランスシートの縮小は9月開始、次回の利上げは12月というシナリオ通り進むとみられる。しかしもし何かの指標、特に消費者物価の上昇率が下落した場合は要注意である。

近年、消費者物価指数上昇率が1.5%を割っている時にFRBが利上げしたことはないことから(前掲図表4)、各種指標、特に消費者物価指数が更に低下した場合、バランスシートの縮小開始も追加利上げも先送りになる可能性が高いだろう。

#### ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。

提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会